

令和4年1月7日

## 京口門だより No.99

明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

落ち着いていた新型コロナ感染症が予測されていたとはいえ、再びオミクロン株が急速に流行しはじめました。まん延防止法の発出で制約が加えられるお店やせつかく年初に計画されていた会などが中止に追い込まれそうです。オミクロン株は感染力が強くとも重症化はしにくいと云われていますが、油断はできません。漢方薬も初期の新型コロナ感染症には有効であるというデータがあり、積極的に利用してほしいものです。ただ、漢方薬はそれぞれの症状や体質によって用いる薬が異なりますので、相談していただければと思います。

お正月がすぎると通常とは異なった食事や生活リズムの不規則化で、胃腸の調子を崩してしまうことがよく見られます。胃もたれ、むかつき、胸やけ、便秘の不規則化、下痢などなどさまざまな症状が起こってきます。現代医学ではいろいろな症状に対してあまり細かな対処はしてくれません。とくに最近では胃薬といえば強い制酸剤などが処方されるだけです。制酸剤は逆流性食道炎などの胸やけなどにも効果があり、胃のピロリ菌にも効くとして、専ら制酸剤オンリーです。

一方、私たちの漢方ではさまざまな症状にたいしてそれぞれ対応できる薬があります。胃もたれには橘皮(ミカンの乾燥した皮)や厚朴(ホウノキの皮)などを含む胃の消化を促進する薬、吐き気には半夏(カラスビシャクの塊根)などを用いた薬、胸やけには黄連(オウレンの根)や山梔子(クチナシの実)を用いた薬、便秘や下痢にも状態に応じた薬があります。

漢方薬の胃腸の薬には、メンタルな影響による胃腸の症状にも有効な薬があります。平生から胃腸の働きがあまりよくなく、その上にいろいろなストレスにさらされて調子を崩す場合、うつ状態からくる胃腸症状、神経性の胃炎、ストレスやメンタルな要因ですぐ下痢しやすい人などに、柴芍六君子湯、四逆散、安中散、半夏瀉心湯などが用いられます。胃や腸は強く自律神経の支配を受け、強い緊張がかかると交感神経の働きが高まって胃腸の活動が抑制され、リラックスすると副交感神経の働きが高まり、胃腸の活動は活発になります。胃腸と精神活動のかかわりを配慮した薬を持っているのは漢方薬の特徴です。

